

ミッション	「地域社会・産業界に貢献する人材の育成」	今年度の重点目標	1. 工業高校らしいエチケット・マナーの育成 2. 授業改革・学力向上 3. キャリア教育による進路実現 4. 心の教育と部活動・生徒会活動の推進 5. ものづくり人材育成 6. 開かれた学校づくり
目指す生徒像	自主・自律の精神を持ち創造力豊かな他者を思いやる人間を目指す		

年 度 当 初						評 価 結 果 (月)		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	評価基準	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
工業高校らしいエチケット・マナーの育成 □	(1)全職員の一致協力的指導(全体集会、集団行動(1年生オリエンテーション)、礼法指導(2,3年生))	・さまざまな行事の場面だけでなく、日常から指導を重ね、成果をあげてきた。	・職員全体が一致協力し、組織的に生徒への指導を行い、成果をあげる。	・教職員「一致協力して指導にあたった」「全体集会時の態度が良い」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・全体集会での指導に全職員で取り組む。			
	(2)エチケット・マナーの育成(挨拶の励行・態度等の指導)	・年間8回実施した頭髪服装指導で4回以上指導を受けた生徒が41名(7.7%)であった。	・挨拶励行・言葉遣い指導により生徒のマナーが向上する。	・教職員「前年度に比べて挨拶できた」「言葉遣い良い」生徒「前年度(中学の時)に比べてマナー向上」保護者「前年度に比べてマナー指導徹底」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・全職員で日常的な挨拶の励行に務める。 ・「マナーアップ運動」などで、部活動の生徒による挨拶運動に継続して取り組む。			
	(3)生徒指導(頭髪服装指導)の徹底(生徒会との連携)	・一部の生徒で遅刻することの認識の甘さが目立つ者もいた。	・頭髪服装指導で指導を受ける生徒数を減少させる。	・頭髪服装指導で年間4回以上指導を受ける生徒数が減少すればA。※	・全職員で日常的に指導すると共に、定期的な頭髪服装指導、身だしなみの向上を図る。			
	(4)遅刻指導の徹底(学年団・生徒指導部連携)		・諸問題に早期に対応し、連携を密にし、生徒の遅刻発生数を減少させる。	・各学期比較で遅刻10回以上の生徒数が50%以上減ならばA。※	・登校指導を通じて、全職員で指導に当たるとともに、早期から保護者への連絡を徹底する。			
授業改革・学力向上	(1)授業を大切に(授業改革)	・授業に集中し、基礎学力を定着させるため、発問・補助教材(プリント等)を工夫した。 ・本校では4名がエキスパート教員に認定されている。 ・習熟度別授業の実施や、成績不振の生徒に対して補講等を実施してきた。	・授業改革を進め、基礎学力を定着させる。 ・クラスの状況や生徒の理解度に応じて授業展開の工夫や補講・個別指導等を行う。	・教職員「授業・実習で学習意欲向上の工夫を図った」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・生徒「学習意欲が高まった」「授業がわかる」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・教職員「基礎学力定着が図れた」生徒「学習意欲があがった」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・エキスパート教員の実践を参考にしたり、研究授業、公開授業等各種研修の機会を活用するなど、相互研鑽を図る。 ・実習班の編成を工夫し、生徒による学び合いを推進する。			
	(2)基礎学力の向上(SPI小テスト・模試による基礎学力向上)	・25年度はジュニアマイスター取得者が11名(ゴールド、シルバーの合計)であった。	・基礎学力を定着させ、就職試験等に対応できる力をつけさせる。	・基礎力診断テスト(1,2年生を対象に実施)の平均点偏差値55以上を維持する。※	・SPI小テスト、就職模試や基礎力診断テストなどを実施し、基礎学力の定着を図る。			
	(3)専門的資格取得の促進(ジュニアマイスター取得者増)		・ジュニアマイスター取得者を増加させる。	・12名以上の生徒がジュニアマイスターを取得すればA。※	・早期から資格取得の重要性を教え、早めの取組を促す。			
キャリア教育による進路実現	(1)系統だったキャリア教育による進路意識・職業観の育成	・25年度は就職希望者は100%内定した。	・健全な職業観・勤労観を育成し、進路適性の理解と情報の活用を促す。	・教職員「明確な進路意識確立できた」生徒「進路指導が充実している」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・進路決定につながる情報の提供をさらに強化する。3年生は学年合同LHRを実施する。また、1,2年生には学期毎のLHRを活用し、進路講演会を実施する。			
	(2)コミュニケーション能力の育成による進路実現(1分間スピーチ・面接指導の充実)		・コミュニケーション力をつけ、進路実現につなげる。	・生徒「1分間スピーチはコミュニケーション力の向上に役立った。」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・面接指導、個別指導等を実施するとともに、対話力を高めたり、作文指導を徹底する。2,3年生に、面接で実力が発揮できるようSHRで1分間スピーチを行う。			
	(3)インターンシップ・企業研修の推進		・2学年全員で3日間実施する。 ・長期休業中に希望者で実施する。	・生徒「インターンシップは勉強になった」「充実していた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・報告会等で外部の方からも評価を受ける。※	・専門性のある企業開拓に務めるとともに、綿密な打ち合わせや事前指導を行い、研修を充実させる。			
	(4)企業研修旅行の充実	・インターンシップ、企業研修旅行等で職業観の育成を進めた。	・県外の大手企業を見学することにより、職業観の育成をはかり、職業選択の一助とする。 ・専門に関わる企業見学により、専門の学習に役立てる。	・生徒「研修旅行は勉強になった」「充実していた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・生徒「企業見学は勉強になった」「充実していた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・研修先の精選と入念な計画により、効果的な研修となるよう務める。			

心の教育の推進と部活動・生徒会活動の推進	(1)部活動の活性化(部活稼働率の向上)		・運動部活動の奨励と強化、文化部活動の活性化を図り、加入率と稼働率の向上を目指す。	・部活動と同好会の加入率が80%以上ならばA。 ・部活動稼働率が95%以上ならばA。(1)	・クラブ一斉会議で部活動加入の意義を生徒会執行部より説明する等オリエンテーションを充実させる。 ・部活動を継続するための指導を徹底する。			
	(2)生徒会活動の活性化(学校祭・球技大会の充実、部活応援)	・25年度全国大会出場部活等は10であり、成果をあげた。 ・ゴミのポイ捨て撲滅に向け、生徒会が活動を展開した。	・生徒会を中心として自発的な活動ができるようにする。	・教職員「学校祭等とおしてリーダー育成が図れた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・学校行事等やLHRを通して、生徒の積極性を涵養する。コミュニケーション能力の向上と絡めて指導する。生徒が達成感を持つことができるように、生徒会を中心に学校行事に全員が関わられるように工夫をする。			
	(3)心身の健全育成	・朝読書等による全体の読書量は増えたが、学年が上がるとともに、読書量が少なくなる傾向がある。	・静かに朝読書に取り組むとともに個別の読書指導も行う。	・生徒「読書量が増えた」「視野が広がった」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・図書委員会活動や早朝貸出等の朝読書に関わる取組を推進する。			
	(4)人権教育の推進		・一貫性のあるテーマで人権教育を推進するとともに、人権教育の4側面を充実させる。	・教職員「人権課題の解決に向けて推進できた」生徒「人権学習にしっかりと取り組めた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・人権教育部専任と担任団の連携を密にし、生徒の実態に応じた学年ごとの人権教育の具体的な取り組みを設定する。 ・生徒が主体的に参加できる人権教育LHRの展開を図る。			
ものづくり人材育成	(1)TEASによる環境教育の推進(5Sの徹底)	・朝清掃を行い、環境への意識を向上できた。	・5Sを徹底するとともにゴミの減量化を図り、環境を大切にできる人材育成を推進する。	・教職員「5S徹底できた」生徒「掃除を頑張った」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・引き続き、5Sの徹底を進め、加えて環境を大切にすることを意識を育てる。			
	(2)ものづくり事業の充実(地域委員会との連携)	・ものづくりコンテスト等(電気工部門、電子回路部門、マイコンカー)で全国大会へ3名が出場した。 ・地域委員会を各科の指導に生かしたが、継続できなくなった。	・高校生ものづくりコンテストで上位入賞を果たす。 ・地域委員会に代わる委員会を創設する。	・教職員「ものづくりで成果があがった」生徒「技術・技能があがった」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・ものづくりコンテスト等で全国大会出場生徒(団体)があればA。※	・ものづくりコンテストへの参加を推奨し、入賞を目指す。 ・地域委員会の趣旨を継続し、専門教育の改善を図る。			
	(3)安全教育の推進	・各科の実習で安全教育をすすめた。	・安全に対する予備知識の指導を徹底し事故が起きないようにする。	・教職員「安全教育が推進できた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・実習時に5Sと連動した安全面での指導の徹底を図る。			
	(4)プレゼンテーション力の向上(課題研究発表会)	・課題研究等を進める中で課題解決能力を育成することができたが、プレゼンテーション力の向上に課題がある。	・課題研究等あらゆる場面を通じてプレゼンテーション力の向上を図る。	・生徒「課題研究等を通じてプレゼンテーション力が向上した」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・科内発表会を充実させ、専門外の者が見てもわかりやすい発表にする。			
開かれた学校づくり	(1)地域社会や中学校との連携(公開実習・学校見学会の充実)	・昨年度は中学生や教員・保護者へ学校公開や体験学習をとおして本校教育についての理解をいっそう深めてもらった。	・地域社会や中学校等に工業教育についての理解を深めてもらう。	・教職員「中体験・学校公開等とおし、中学校や地域へ本校の内容を伝えることができた。」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・中体験参加中学生「満足した」「興味を持った」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・中学生体験学習(7月)、学校公開(11月)に加えて、中学校教員対象学校説明会(6月)、学校見学会(10月、12月)を実施する。			
	(2)学校評価の充実		・学校が掲げた評価項目について、目標達成のための方策が適切に実施されている。	・学校関係者評価委員の意見を踏まえて評価を行う。※	・評価基準や目標達成のための方策等の見直しを視野に入れ、適正な評価を行う。			
	(3)ホームページの充実(保護者へのメール配信)	・HPを改善し、学校からの情報発信の充実に務めた。 ・保護者の協力体制は充実している。	・ホームページ更新、携帯メールの発信を充実させる。	・保護者「携帯メール等により学校からの情報がわかった」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・積極的な情報発信に努める。			
	(4)PTA活動の推進		・引き続き、保護者・教職員との協力的指導が行えるようにする。	・PTA活動参加者数のべ500人以上でA。(2)	・PTA活動への参加の呼びかけを行う。			

26年度 評価基準

アンケート結果によるもの(部活加入率も準ずる)	A 80%以上 B 70%以上～80%未満 C 60%以上～70%未満 D 50%以上～60%未満 E 50%未満
(1)の項目	A 95%以上 B 93%以上95%未満 C 91%以上93%未満 D 90%以上91%未満 E 90%未満
(2)の項目	A 500人以上 B 450人以上500人未満 C 400人以上450人未満 D 350人以上400人未満 E 350人未満

※の項目＝協議による